



(案)

第5次さっぽろ子ども未来プラン

令和7年度実施状況報告書
＜札幌市子ども・子育て支援事業計画＞

令和8年(2026年) 月
札幌市

目次

1 札幌市子ども・子育て支援事業計画について

(1) 概要	3
(2) 量の見込みについて	4
(3) 提供体制（供給量）について	5

2 教育・保育の需給状況

(1) 保育（2号（うち教育利用希望が強い場合を除く）、3号）における需給状況	6
(2) 教育（1号、及び2号のうち教育利用希望強い場合）における需給状況	7
(3) 評価	8

3 「地域子ども・子育て支援事業」の需給状況等

(1) 第5次さっぽろ子ども未来プラン掲載事業の需給状況	9
(2) 量の見込み等の作成対象外となっている事業について	24
(3) 評価	26

1 札幌市子ども・子育て支援事業計画について

(1) 概要

- 市町村は、子ども・子育て支援法に基づき、5か年を一期とする「子ども・子育て支援事業計画」（以下、「事業計画」という。）を定め、子ども・子育て支援施策を計画的に提供する。
- 事業計画では「教育・保育」、「地域子ども・子育て支援事業」について、計画期間中の各年度において以下を定める。
 - 「量の見込み」（利用に関するニーズ量）
 - 「確保方策」（提供体制の確保の内容及びその実施時期）
- 以降は、令和7年度における札幌市の事業計画の需給状況についての報告である。

(2) 量の見込みについて

● 量の見込み

特定の保育サービスがどれだけ必要とされているかに関する見込みのこと

● 札幌市では下表の考え方に基づいて見込む

事業名等	量の見込みに 当たっての考え方
「教育・保育」とは保育所、認定こども園、幼稚園、小規模保育等で就学前の子どもに対し提供される保育サービスのことで、以下のとおり区分される。 ● 1号：満3歳以上で保育の必要なし。教育の利用を希望 ● 2号（学校教育利用希望）：満3歳以上で保育の必要があり、教育の利用も希望 ● 2号（学校教育利用希望以外）：満3歳以上で保育の必要があるが、教育の利用は積極的には希望しない ● 3号：3歳未満で保育の必要あり	国の手引きによる。 なお、国の手引きにより推計される利用意向率は至近の利用意向率の向上幅を考慮し、今後とも一定の率で変動するものとする。

（３）提供体制（供給量）について

- 提供体制（供給量）

特定の保育サービスが施設・事業者により提供される見込みの量のこと

- 提供体制（供給量）の確保にあたっての考え方

以下の観点を踏まえ、既に事業を実施している事業者の活用を最優先とする。

- 就学前の子どもが減少していく見込みであること
- 新規整備を必要最小限に留める観点
- より質の高い保育サービスの提供が期待できること

2 教育・保育の需給状況

(1) 保育（2号（うち教育利用希望が強い場合を除く）、3号）における需給状況

（単位：人）

ニーズ量	計画値			実績値			差（実績値-計画値）		
	2号	3号	計	2号	3号	計	2号	3号	計
	16,860	15,257	32,117	13,988	14,467	28,455	-2,872	-790	-3,662
供給量	計画値			実績値			差（実績値-計画値）		
	2号	3号	計	2号	3号	計	2号	3号	計
	16,168	17,118	33,286	16,028	16,957	32,985	-140	-161	-301
供給実績－ニーズ実績				2号	3号	計			
				2,040	2,490	4,530			

ニーズ量を上回る供給量を確保できている。

3号の動向：少子化の進行等により、ニーズ実績が計画値を下回る（▲790人）減少傾向にある。計画の方針に沿って新規整備を必要最小限に留め、既存施設を最優先に活用することで、安定的な充足体制を維持している。

2号の動向：ニーズ実績が計画値を大きく下回る結果（▲2,872人）となった。これは、保育ニーズが「幼稚園の預かり保育」や「認定こども園の教育枠」へ移行していることが主な要因と分析している。

(2) 教育（1号、及び2号のうち教育利用希望強い場合）における需給状況

(単位：人)

ニーズ量	計画値			実績値			差（実績値-計画値）		
	1号	2号(※1)	計	1号	2号(※2)	計	1号	2号	計
	10,394	4,502	14,896	13,976	4,534	18,510	3,582	32	3,614
供給量	計画値			実績値			差（実績値-計画値）		
	1号	2号(※3)	計	1号	2号(※3)	計	1号	2号	計
	22,653	9,275	31,928	20,179	10,216	30,395	-2,474	941	-1,533
供給実績－ニーズ実績				1号	2号	計	※1：学校教育利用希望が強い場合のみ ※2：認定こども園の入所児童数 ※3：認定こども園の2号定員数		
				6,203	5,682	11,885			

ニーズ量を上回る供給量を確保できている。

- 1号ニーズの増加（代替）
1号認定のニーズ実績が計画値を大きく上回った（+3,582人）。これは、就労ニーズを持つ保護者が、幼稚園等で「預かり保育（新2号）」を利用することにより、保育ニーズを代替していることが要因と考えられる。
- 供給体制の再構築
1号の供給実績が計画を下回る一方（▲2,474人）、2号教育の供給実績は増加（+941人）している。これは、既存幼稚園の認定こども園への移行によって2号枠が拡大したことに加え、各施設において利用実態に合わせた1号の定員減が進んだことによるものであり、保育ニーズの変化に応じて供給体制が変化している結果と捉えている。

(3) 評価

全体としてニーズ量を上回る供給量を適切に確保できている。

- 全体評価

就学前児童の減少が進む一方で、保護者のニーズは「1号利用（預かり保育併用）」や「認定こども園」へシフトしている。こうした変化に対し、新規の施設整備を必要最小限に留めつつ、認定こども園への移行等により既存施設を有効活用することで、市全体として必要な受け入れ枠を計画的に確保することができた。

なお、保育・教育とも、ニーズに対し十分な供給量が確保されていることから、計画の中間見直しは行わないこととする。

- 今後の展望

引き続き、多様化するニーズや利用動向を丁寧に把握・注視するとともに、施設側の意向や実態に寄り添いながら、安定した教育・保育の提供体制の維持に努める。

3 「地域子ども・子育て支援事業」の需給状況等

(1) 第5次さっぽろ子ども未来プラン掲載事業の需給状況

No. 1 利用者支援事業

	基本型、特定型、こども家庭センター型(箇所)			妊婦等包括相談支援事業型(人回)		
	計画値(C)	実績値(D)	実績-計画 (C)-(D)	計画値(C)	実績値(D)	実績-計画 (D)-(C)
ニーズ量(A)	40	40	0	30,153	22,988	▲7,165
供給量(B)	40	40	0	30,153	22,988	▲7,165
供給-ニーズ (B)-(A)		0			0	

<進捗状況>

- 基本型、特定型、こども家庭センター型は、区役所等の窓口を計画値どおり設置した。
- 妊婦等包括相談支援事業型は、ニーズ量実績を満たす供給量を確保できており、実際の利用希望者は全て利用できている。
- 妊婦等包括相談支援事業型は、実績値が計画値に対して約24%減となっている。これは本事業の対象者すべてに対応する前提で計画値を推計しており、実際の希望者数が当初の見込みよりも少なかったことによるもの。
- 今後も供給体制の確保・維持に努める。

(1) 第5次さっぽろ子ども未来プラン掲載事業の需給状況

No. 2 時間外保育事業

(単位：人)

	計画値(C)	実績値(D)	実績-計画(D)-(C)
ニーズ量(A)	13,444	16,762	3,318
供給量(B)	34,862	35,204	342
供給-ニーズ(B)-(A)		18,442	

<進捗状況>

- ニーズ量の実績値が計画値に対して約25%増となっているが、これを上回る供給量を確保できている。
- 今後も十分な供給量の確保・維持に努める。

(1) 第5次さっぽろ子ども未来プラン掲載事業の需給状況

No. 3 放課後児童健全育成事業(児童クラブ、民間児童育成会)

(単位：人)

	計画値(C)	実績値(D)	実績-計画(D)-(C)
ニーズ量(A)	26,013	27,431	1,418
供給量(B)	29,456	29,740	284
供給-ニーズ(B)-(A)		2,309	

<進捗状況>

- ニーズ量、供給量共に実績値は概ね当初の計画値どおりであり、ニーズ量を上回る供給量を確保できている。
- 今後も十分な供給量の確保・維持に努める。

(1) 第5次さっぽろ子ども未来プラン掲載事業の需給状況

No. 4 子育て短期支援事業

(単位：人日)

	計画値(C)	実績値(D)	実績-計画(D)-(C)
ニーズ量(A)	2,001	1,864	▲137
供給量(B)	2,736	2,286	▲450
供給-ニーズ(B)-(A)		422	

<進捗状況>

- ニーズ量、供給量共に実績値は概ね当初の計画値どおりであり、ニーズ量を上回る供給量を確保できている。
- 今後も十分な供給量の確保・維持に努める。

(1) 第5次さっぽろ子ども未来プラン掲載事業の需給状況

No. 5 地域子育て支援拠点事業

(単位：人回)

	計画値(C)	実績値(D)	実績-計画(D)-(C)
ニーズ量(A)	22,777	25,504	2,727
供給量(B)	44,537	48,321	3,784
供給-ニーズ(B)-(A)		22,817	

<進捗状況>

- ニーズ量、供給量共に実績値は概ね当初の計画値どおりであり、ニーズ量を上回る供給量を確保できている。
- 今後も十分な供給量の確保・維持に努める。

(1) 第5次さっぽろ子ども未来プラン掲載事業の需給状況

No. 6 一時預かり（幼稚園型）

(単位：人日)

	計画値(C)	実績値(D)	実績-計画(D)-(C)
ニーズ量(A)	1,174,768	1,118,393	▲56,375
供給量(B)	2,090,744	2,165,794	75,050
供給-ニーズ(B)-(A)		1,047,401	

<進捗状況>

- ニーズ量、供給量共に実績値は概ね当初の計画値どおりであり、ニーズ量を上回る供給量を確保できている。
- 供給量について、当初の想定よりも実施施設が増加、受入可能枠が拡大したことなどにより、実績値が計画値を上回る結果となった。
- 今後も十分な供給量の確保・維持に努める。

(1) 第5次さっぽろ子ども未来プラン掲載事業の需給状況

No. 7 一時預かり(幼稚園以外)、子育て援助活動支援事業(病児・緊急対応除く)

(単位：人日)

		計画値(C)	実績値(D)	実績-計画(D)-(C)
ニーズ量(A)	一時預かり(幼稚園以外)	59,260	52,776	▲2,478
	子育て援助活動支援事業 (病児・緊急対応除く)		4,006	
供給量(B)	一時預かり(幼稚園以外)	687,420	885,664	198,244
	子育て援助活動支援事業 (病児・緊急対応除く)	14,556	12,247	▲2,309
供給-ニーズ (B)-(A)	一時預かり(幼稚園以外)		832,888	
	子育て援助活動支援事業 (病児・緊急対応除く)		8,241	

<進捗状況>

- 一時預かりの供給量について、実績値が計画値に対して約28%増となっているが、これは施設による利用定員(受入可能枠)の設定が当初の想定以上に行われたことによるもの。
- 子育て援助活動支援事業の供給量について、実績値が計画値に対して約20%減となっているが、これは提供会員数の減によるもの。
- 両事業ともにニーズ量を上回る供給量を確保できている。今後も十分な供給量の確保・維持に努める。

(1) 第5次さっぽろ子ども未来プラン掲載事業の需給状況

No. 8 病児保育事業、子育て援助活動支援事業(病児・緊急対応強化)

(単位：人日)

		計画値(C)	実績値(D)	実績-計画(D)-(C)
ニーズ量(A)	病児保育事業	34,223	1,969	▲31,879
	子育て援助活動支援事業 (病児・緊急対応強化)		375	
供給量(B)	病児保育事業	9,376	8,176	▲1,200
	子育て援助活動支援事業 (病児・緊急対応強化)	26,882	26,657	▲225
供給-ニーズ (B)-(A)	病児保育事業		6,207	
	子育て援助活動支援事業 (病児・緊急対応強化)		26,282	

<進捗状況>

- ニーズ量について、実績値が計画値に対して大幅に減となっているが、これは全ての潜在ニーズに対応できるよう当該事業を毎日利用する等の前提で計画値を構築したことで実際の利用形態（毎日ではなく隔日や不定期での利用等）より多く見積もられていることによるもの。
- 両事業について、十分な供給量を確保できている一方、ニーズ量実績が少ないことから、利用促進に取り組んでいく。病児保育事業については、実施施設の整備にも取り組んでいく。

(1) 第5次さっぽろ子ども未来プラン掲載事業の需給状況

No. 9 子育て援助活動支援事業（就学後）

（単位：人日）

	計画値(C)	実績値(D)	実績-計画(D)-(C)
ニーズ量(A)	1,087	1,176	89
供給量(B)	3,510	3,364	▲146
供給-ニーズ(B)-(A)		2,188	

<進捗状況>

- ニーズ量、供給量共に実績値は概ね当初の計画値どおりであり、ニーズ量を上回る供給量を確保できている。
- 今後も十分な供給量の確保・維持に努める。

(1) 第5次さっぽろ子ども未来プラン掲載事業の需給状況

No.10 乳児家庭全戸訪問事業

(単位：人)

	計画値(C)	実績値(D)	実績-計画(D)-(C)
ニーズ量(A)	9,895	9,043	▲852
供給量(B)	9,895	9,043	▲852
供給-ニーズ(B)-(A)		0	

<進捗状況>

- ニーズ量と等しい供給量を確保しており、実際の利用希望者は全て利用できている。
- 今後も供給体制の確保・維持に努める。

(1) 第5次さっぽろ子ども未来プラン掲載事業の需給状況

No.11 養育支援訪問事業等

(単位：人)

	計画値(C)	実績値(D)	実績-計画(D)-(C)
ニーズ量(A)	8,396	2,813	▲5,583
供給量(B)	8,396	2,813	▲5,583
供給-ニーズ(B)-(A)		0	

<進捗状況>

- ニーズ量と等しい供給量を確保しており、実際の利用希望者は全て利用できている。
- 実績値が計画値に対して約34%程度に留まっているがこれは、養育支援を必要とする家庭を広く定義づけ、それら全ての家庭へ訪問する前提で計画値を構築したが、実際は当初の見込みよりも養育支援を必要とする世帯が少なかったことによるもの。
- 今後も供給体制の確保・維持に努める。

(1) 第5次さっぽろ子ども未来プラン掲載事業の需給状況

No.12 妊婦に対して健康診査を実施する事業

(単位：人回)

	計画値(C)	実績値(D)	実績-計画(D)-(C)
ニーズ量(A)	138,530	115,973	▲22,557
供給量(B)	138,530	115,973	▲22,557
供給-ニーズ(B)-(A)		0	

<進捗状況>

- ニーズ量と等しい供給量を確保しており、実際の利用希望者は全て利用できている。
- 今後も供給体制の確保・維持に努める。

(1) 第5次さっぽろ子ども未来プラン掲載事業の需給状況

No.13 子育て世帯訪問支援事業

(単位：人日)

	計画値(C)	実績値(D)	実績-計画(D)-(C)
ニーズ量(A)	2,700	3,387	687
供給量(B)	2,700	3,387	687
供給-ニーズ(B)-(A)		0	

<進捗状況>

- ニーズ量の実績値が計画値を大きく上回ったものの、ニーズ量と等しい供給量を確認しており、実際の利用希望者は全て利用できている。
- 今後も供給体制の確保・維持に努める。

(1) 第5次さっぽろ子ども未来プラン掲載事業の需給状況

No.14 乳児等通園支援事業

(単位：人)

	計画値(C)	実績値(D)	実績-計画(D)-(C)
ニーズ量(A)	3,876	792	▲3,084
供給量(B)	3,876	1,313	▲2,563
供給-ニーズ(B)-(A)		521	

<進捗状況>

- ニーズ量、供給量ともに、実績値が計画値に対して大幅に減となっているが、これは過去実績がない中で市民アンケートや直近の利用率などを踏まえ見込んだが、利用数および実施施設数が伸びず、見込みとの差異が生じたことによるもの。
- 実績値では、受け皿確保に努めたことでニーズ量を上回る十分な供給量が確保できており、利用希望者は全て利用できている状況となっている。
- 引き続き、未実施施設への実施勧奨を行い必要な供給量の確保に取り組み、市民への制度周知など利用促進に取り組んでいく。

（１）第5次さっぽろ子ども未来プラン掲載事業の需給状況

No.15 産後ケア事業

（単位：人日）

	計画値(C)	実績値(D)	実績-計画(D)-(C)
ニーズ量(A)	2,589	4,053	1,464
供給量(B)	3,822	4,053	231
供給-ニーズ(B)-(A)		0	

<進捗状況>

- ニーズ量の実績値が計画値を大きく上回ったものの、ニーズ量と等しい供給量を確認しており、実際の利用希望者は全て利用できている。
- 今後も供給体制の確保・維持に努める。

(2) 量の見込み等の作成対象外となっている事業について

No.1 実費徴収に係る補足給付を行う事業

- 事業内容

低所得者世帯等の副食材料費（私学助成幼稚園のみ）及び生活保護世帯等に係る文房具等の購入・遠足等の行事参加費等（1～3号）に関して、保護者が支払うべき実費徴収額に係る費用の一部を補助するもの。

- 実施状況

R7年度実績：22,278千円

①教材費補助 649人

②私学助成幼稚園副食費補助 501人

(2) 量の見込み等の作成対象外となっている事業について

No. 2 多様な主体が子ども・子育て支援新制度に参入することを促進するための事業

- 事業内容

新たに参入する教育・保育施設等の事業者に対して、事業開始後、事業運営が軌道に乗るまでの間、保護者や地域住民との良好な関係構築や、当該施設を利用する児童への対応等に関する実地支援、相談・助言等を行うもの。

- 実施状況

R7年度新規参入施設3施設に対し支援を実施

実施施設内訳：幼保連携型認定こども園3施設

（３）評価

- 地域子ども・子育て支援事業については、それぞれの事業でニーズ量の実績を上回る供給量を確保することができたことから、計画の中間見直しは行わないこととする。
- 一方で、一部の事業において、ニーズ量が計画値を下回り利用促進が必要な事業もあると認識。
- 引き続き、必要な供給量を確保しながら各事業を実施するとともに、積極的な情報発信を行うなど、子育ての負担や不安が軽減できる取組に努める。